



責任ある調達活動

■ 方針

当社は、グローバル20ヶ所の生産拠点で、日本国内外の約1,000社の購入先様から、電池用活物質等の原材料や加工部品及び電子デバイス等を調達しています。このプロセスにおいて、サプライチェーン全体で、企業としての社会的責任を果たすことが重要であると認識しています。その責任を果たすためにも、グローバルに購入先様とパートナーシップを構築し、信頼と協力のもと、購入品の品質向上や競争力のある価格を追求し、お客様に求められる製品価値を創出するとともに、法令や社会規範、企業倫理の順守、人権尊重や環境保全、情報セキュリティなどの社会的責任を果たしながら、持続可能で環境負荷の少ないサプライチェーンを確立し、責任ある調達活動を購入先様とともに推進していきます。

■ 取り組み

サプライチェーンCSRガイドラインの順守と自主アセスメント・監査によるリスクの低減

パナソニックグループでは、CSR調達に関するグループの考え方を示し、購入先様への要請事項を明確に伝えるため、法令や国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」などの国際規範を参照したCSRガイドラインを策定し順守を義務付けています。当社グループもこの活動に則り、新規購入先様にはガイドラインの順守を義務化した取引基本契約書の締結を、既存購入先様にはガイドライン順守の同意書の提出を要請してきました。2025年3月末時点で、全ての一次購入先様から同意書面を提出いただくことができました。一次購入先様 351社にこのガイドラインに基づいたCSRアセスメントシートを用いた定期的な自主アセスメント(※リスクが小さい順に、A、B、Cの3つのランクに分類)を要請し、2025年3月末時点で、307社(87%)がAランク、39社(11%)がBランク、残りの5社が未提出となっています。未提出の購入先様には継続して提出を要請しており、Bランクの購入先様には当社の調達部門と共同したCSR管理体制強化・改善活動を推進し、Cランクの購入先様が生じた場合は取引の見直しを行います。さらには、2023年度から当社が主体となり購入先様に対しCSR実地監査を開始しており、今後もこの実地監査を継続していくことでサプライチェーンのリスク特定と対策を進めていきます。

責任ある鉱物調達

電池の主要材料である鉱物のサプライチェーンには、人権侵害や環境破壊などの様々なCSRリスクが懸念されるため、デュー・ディリジェンスが不可欠です。当社はOECDのガイドラインに従った責任ある鉱物調達方針を策定し、毎年購入先様の協力を得て、製錬所の特定とRMAP^{*1}準拠またはその他認証の取得状況を確認しています。非準拠製錬所にはRMAPへの参加を働きかけ、万一、紛争に加担する鉱物が見つかった場合は、調達先変更や不使用化を要請しています。今後も、全購入先様から調査票を回収しConformant/Activeな製錬所^{*3}のみからの調達を目指します。

■ 金、タンタル、錫、タングステンへの対応

項目	データ
CMRT ^{*4} 回収率	100%
Conformant/Active製錬所の利用率 ^{*3}	94.1%

■ コバルト、マイカへの対応

項目	データ
EMRT ^{*4} 回収率	100%
Conformant/Active製錬所の利用率	80.6%

*1 RMAP: RMI^{*2}が定める、責任ある鉱物保証プログラム

*2 RMI: Responsible Minerals Initiative、企業が責任ある鉱物調達を行うために、業界標準の調査ツール等を提供する団体

*3 Conformant製錬所: 監査によって、RMAP適合が確認された製錬所 Active 製錬所: RMIによる監査を受ける準備段階にある製錬所

*4 CMRT、EMRT: RMIが発行する紛争鉱物調査帳票

KPI項目	2024年度	2030年度
一次購入先様からの CSR同意書取得率	100%	100%
一次購入先様の CSR自主アセスメントAランク率	87%	100%
一次購入先様の CSR監査実施による担保率	34%	100%
CMRT・EMRT回収率	100%	100%
Conformant/Active 精錬所利用率	90.8%	100%